

プログラム (敬称略)

9時30分 《一般演題》 — 座長 — 今井 秀

1. 日本における打膿の展開 — 経過報告パート2 谷田保啓 (名古屋市)
2. 『瘡瘍経験全書』に見る梅毒の定義と治療法 高橋正子 (名古屋市)
3. 国立公文書館蔵 周于蕃『小兒推拿秘訣』多紀元簡手跋本について
李 強 (堺市)
4. 久野玄越・草刈三越・吉永升庵 — 腹診の確立と漢蘭の折衷
長野 仁 (神戸市)

10時35分 — 座長 — 田中祐尾

5. トキ標本とシーボルト 西巻明彦 (東京都)
6. ジェイムズ・マッケンジーの生涯と事績 柳沢波香 (東京都)
7. ポンペの内科講義と臨床講義について 相川忠臣 (長崎市)
8. 『花彙』 草之一に収載された植物について 安部郁子 (研医会図書館)

11時40分 関西支部総会

支部長挨拶	猪飼祥夫
事務局長報告・伝達	田中祐尾

—— 昼休み ——

※ 発表は14分、質疑応答は1分。時間厳守でお願いします。
発表者は大会後早急に抄録を提出してください。

13時00分 《特別講演》 — 座長 — 猪飼祥夫 (支部長)

野村オールドクリニックについて 医学資料の保存と地域活動

演者 野村医院院長 野村信介先生

14時10分 — 座長 — 三鬼丈知

9. 艶本『風流色図法師』に引かれる内景図について 永塚憲治 (函館市)
10. 都築博士と原爆症 飯塚修三 (西宮市)
11. 結核予防指導看護婦の育成はじまり 鈴木紀子 (東京都)
12. ウイリアム・アンダーソン『看病要法』(明治12年)にみる
病人のための西洋料理法 平尾真智子 (京都市)

15時20分 — 座長 — 島山奈緒子

13. 永富独嘯庵の生涯 ～ 長府御領砂糖製作一件とその顛末について
今井 秀 (豊中市)
14. 幕末明治期の漢方医学と西洋医学：新資料の『西洋駁義』を中心に
向 静静 (立命館大)
15. 幕末における漢方と蘭方の対立構造 — 伊藤鳳山『漢蘭酒話』を中心に
関屋成彰 (京都市)
16. 天回医簡にみる経脈考 猪飼祥夫 (京都市)

16時30分 閉会の辞 支部長 猪飼祥夫

《紙上発表》

1. 小野妹子医書将来考 多田伊織 (奈良市)
2. 権力者と西洋医学の導入 — 稲葉美濃守正則(1623～96)の場合
ミヒエル・ヴォルフガング (福岡市)
3. 神経発達症支援組織 Bryggan の活動 2017 小野尚香 (日本福祉大学)
4. 森鼻宗次『皮下注射要略』(明治六年)にみる注射術の夜明け
田中祐尾 (八尾市)